

平成31年第1回教育委員会定例会議事録

招集日時 平成31年1月30日（水曜日）午後1時30分時開会／午後2時55分閉会
招集場所 加賀市民会館3階 15会議室
教育長 山下修平
出席委員 篠原隆一、山下裕嗣、疎幹子、佐野明子
会議列席者 梶谷事務局長、越中谷次長兼学校指導課長、山本教育庶務課長、宮下生涯学習課長、新家中央図書館長、
柏田山中図書館長、宮本教育総合支援センター所長、中田スポーツ課長、奥村マラソン開催推進室長、
北口文化振興課参事、山下教育庶務課長補佐

平成31年第1回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○山下教育長 平成31年になりまして第1回目の定例会ということですが、正月を迎えて早くも1カ月を終えようとしています。今年度もあと2カ月となりました。

今、学校の方では中学校が2月の最初に私立入試がありますので、最後の大詰めというところでもありますし、小中とも今年度のまとめの時期に入っているかなというふうに思います。今インフルエンザが全国的に猛威を振るっている状態で、ニュースにもその状況がいつも載っているようですが、加賀市の学校の様子をお知らせしますと、幸いにあまり蔓延しているという状態ではありません。先週橋立小学校の1、2年生が学年閉鎖となり、今週は解消しましたが、今度は河南小の3年生が学年閉鎖という状態です。他の学校でも罹っている子がいますが、学級、学年閉鎖にはなるところまではまだっていないという状況です。

教育委員会関係では先週の土日にかがく宇かんという、中谷宇吉郎博士の関係のイベントを行いました。これはあとで議題にあがってきますので、説明をしていただきますが、全国から若手の研究者が集まって熱い議論を重ねました。時間と空白のズレというような非常に難しいテーマでした。このかがく宇かんというイベントがいよいよスタートを切ったということです。

市としましては2月末から3月議会がはじまります。かがく宇かんをもって大きなイベントはだいたい終えたかなと思います。

それでは今年第1回の定例会、さっそく審議事項に入っていきたいと思います。議案第1号、加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区保存計画の変更についてについて北口参事お願いいたします。

- 議案第1号 加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について
北口参事 資料に基づき説明

○山下教育長 ただいま保存地区の保存計画の変更ということで、2箇所、土蔵から小屋に、それから納屋から土蔵に修正があったということで、7ページには現物の写真が載っておりますので、それを見てご理解をいただきたいと思います。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員　　お願いします。普通の納屋から土蔵に変更するのは補助金がアップしていいんですけど、逆に土蔵が小屋になると補助金が下がりますよね。そのことに関して土地の所有者の方のご了解は得ていらっしゃるんですね。

○北口参事　　はい。その点につきましては、来年度修理の予定でして、当然文化庁の調査官の方も現地を確認していただきまして、そういう状態だということはご理解はいただいております。所有者の方にも、そういうことで補助対象の率が変わるということは承知いただいております。

○篠原委員　　わかりました。そのことに関して、特に補助金が下がる場所の方については、負担が増えるんじゃないかと気にしておりますので、そのことのご了解さえ得ていれば結構だと思います。

○北口参事　　すみません。そもそも A-12 の方はそこまでの事業費対象までかからないかなと思われまして。そういった対象費用と補助の割合は、だいたい一致しておりますので、400 万以上はかからないかと思われまして。

○篠原委員　　わかりました。

○山下教育長　　他、ございませんか。それでは議案第 1 号、加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について賛成の方は挙手をお願いします。

○委員　　全委員挙手

○山下教育長　　全会一致で可決いたします。本日の審議事項はこの 1 件でございます。続いて報告事項に入ります。報告第 1 号、かがく宇かん公開研究会の開催結果について山本課長お願いいたします。

- 報告第 1 号 かがく宇かん公開研究会の開催結果について
山本課長　　資料に基づき説明

○山下教育長　　ただいまかがく宇かん公開研究会の開催結果について報告がありました。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○疎委員　　はい。これは今後も定期的にやっていくんですか。

○山本課長　　はい。今回初めてでしたけれども、来年度以降もこの事業としては展開していく予定をしております。このプロジェクトの主催は市長でありますけれども、ディレクターとして岡崎乾二郎という基調報告を行った方、造形作家であり、批評家の方でありますけれども、この方の今回の感想を聞いても、また定期的にこういったかたちで研究会を開いていくこともいいのではないかとということも聞いております。あと、研究員が一定期間加賀市に滞在しながら加賀市の中で研究活動を行う、そういったような取組も検討しているところであります。以上です。

○疎委員　　いいですか。これをすることで、加賀市の文化的なものを全国的に発信するとか、中谷宇吉郎の雪の科学館を知らせるとか、そういう意味があるんですか。

○山本課長　　はい。今疎委員さんが言われました通り、プロジェクトの一番根底の部分では、中谷宇吉郎博士が加賀市出身であったということが一番の根底にあります。中谷博士は雪の研究をはじめとして、自然科学の研究、そして芸術分野でも秀でていたということ为背景として

おります。市民にとっては日常の生活に直結するような効果は薄いかとは思いますが、芸術分野に関心がある市民の方、科学に関心がある方が、いわばここに集まってこられる研究員の方というのは、各分野で第一線で活動しておられる方ばかりですので、そういった方の意見を直接聞く機会が得られることによって市民の教養が高まるとか、そういったような効果もあると思いますし、あとは結構特徴的な活動になりますので、こういった面白いことが加賀市で行われているということ発信することによって、注目を浴びることにつながるという、そういった効果も期待しております。以上です。

○山下教育長 他、ございませんか。よろしいですか。今説明がありましたように、中谷宇吉郎博士の二女の中谷芙二子さんと、そして造形作家の岡崎乾二郎さんを中心にしまして、加賀市長と教育委員会と何回も話をしてきました。岡崎さんの思いとしては、科学と芸術を融合した新しい学問を加賀市から世界に発信したいというような壮大な思いがあるということで、今回はそれに向けての第一歩として、このような研究会が行われたということです。世界から研究者が集まってくるような新しい学問を開発していきたいというようなテーマに向かってスタートしたという状況であります。それでは次にいきたいと思います。報告第2号、加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果について越中谷次長お願いいたします。

- 報告第2号 加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果について
越中谷次長 資料に基づき説明

○山下教育長 ただいま平成30年度の勤務時間、12月までの発表がありましたけれど、これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 お願いします。残業時間が昨年度と比べて増えているというのが非常に残念でしたけど、各学校の校長先生は非常にご尽力なさっていらっしゃるというのは拝察されます。調査方法が昨年度と比べて若干厳密化したということで、先ほど残業時間が増えている要因だどご説明がありましたけれど、来年度になればもう少し下がっていくんじゃないかと期待しております。かといって、全体的に見て多いというのは歴然としてわかりますので、やはり45時間以内にとどめなければいけないだろうなと思います。80時間超えを3年後にはゼロにするという県の目標が出されているというお話でしたので、委員会も、市教委も県教委もいろんなところでご尽力なさっていることは十二分にわかります。ただし先生方の中での勤務時間の多さというのは、ちょっと勤務状況としてはおかしな状況だと思いますので、そのための根本的な解消としてはいろいろなことが考えられますけど、結局は教員の数を増やしていただくということが、1番の大きな超過勤務を減らすための手立てになるんじゃないかと思っています。あるいはまた教員でなければならぬ仕事だけにしていただくとか、そのことはこの間、中教審がこのようなことについての答申を出されましたけど、それを読んでいましても、なかなか具体的にこれで一気に変わるということはほとんど出ていなかったような感じがいたしますので、改めて現場の市教委の方から県教委、あるいは文科省の方に、要するに教員の数を増やすような努力をぜひ、今もやってらっしゃると思いますが、強く呼びかけていただきたい。このままでは教員というのはひどい仕事だということで、社会的にも良くない傾向になってきますので、やはり未来の子どもを育てるためには、意欲のある若い先生方にゆとりを持って授業や、いろ

んな活動を行っていただきたいと思いますので、改めてこのことは最優先に掲げられる大切な問題だと思っておりますので、ぜひいろんなところで機会がありましたら皆様方にご努力を願ってご要望をしていただきたいと思っております。以上です。答弁は結構です。

○**山下教育長** 今の件は県の教育長がいつも口を酸っぱくして、今の言われたことを文科省に先頭をきって言うてくださっておりますので、でもなかなか難しいと思っておりますが、そういうかたちになることを願っております。それと今篠原委員も言われましたけど、先週の新聞で中教審が文科省に、この働き方改革に関して答申を寄せたという記事が載っております。それを見ますと月 45 時間に抑えるというようなことが載っております。今の状況からみると非常に厳しい数字かなということを感じております。ただそれを破っても罰則等はありませんけど、それに近づけていくような努力を市教委としてもしていかないといけないなと思っております。

他、ございませんか。

○**山下委員** はい。今の件でちょっとお聞きしたいのが、今、先生方の定年が多くなっているということで、新採用の定数が変わらないのか、それを増やして何か努力しようとしているのかという状況がわかれば教えてください。

○**越中谷次長** はい。退職者の大量退職の時代がもう数年前からはじまってしまっていて、それに合わせて新採教員が 350 名という大量の採用というのがずっと続いてきており、今 300 名は超えてきていると思うんですけど、新採を大量に採用している状況は高止まりになっています。そうすると年齢バランス的には 50 代以上が多くて、20 代の若手もだいぶ増えてきているという状況です。

○**山下委員** お聞きしたいのは、定数がたぶん退職の教諭イコール新採教諭だと思うんですけど、追加プラスアルファとかそういう見当があるのか、ないのかということ。

○**越中谷次長** 今、60 代で定年になればそのあと再雇用がありますので、65 歳まで希望者は再任用で入っています。ただ全体の定数というのが大きく増えているわけではありません。その一方で加配教員というのが別枠で入っています。

○**山下教育長** 県としては、例えば今年がすごく退職者が多かったから、新採も多くとるということとはしないで、平均的なかたちである程度余裕をもってとっていくという、そういう方針をとらないと、またその年度になったらたくさん辞めることになるので、県の教育長はそのような方針でいくという話は聞いております。他、ございませんか。この件はこれでよろしいですか。それではその他に入ります。小中学校の卒業式・入学式の開式時刻について越中谷次長お願いいたします。

● 小中学校の卒業式・入学式の開式時刻について

越中谷次長 資料に基づき説明

○**山下教育長** 今年の卒業式、そして来年度の入学式のそれぞれの委員さんの行く学校、そして時間が示されております。卒業式に関してはすべて 9 時半ということですが、入学式は学校によって若干時間が違いますし、中学校は午後となりますので、またご自分の担当のところをご確認の方よろしくお願いいたします。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。また委員の皆さんには卒業式では告辞、入学式では祝辞をお願いいたします。続いて緑丘小学校

の統合に伴うスクールバスの運行について山本課長お願いいたします。

- 緑丘小学校の統合に伴うスクールバスの運行について
山本課長 資料に基づき説明

- 山下教育長 緑丘小学校の統合に伴うスクールバスの運行について説明がありましたが、これについて何かご意見、ご質問ございませんか。
- 篠原委員 お願いします。今マイクロバス2台で運行なさるといことで、マイクロバスは25人定員ですよね。そうなってくると今、実際の緑丘小学校の来年度以降の子ども達で、このバスを利用する子ども達が何名いるのかをお聞きしたいです。2つに分かれて運行するということは大変いいとは思いますが、何名いらっしゃるんですか。
- 山本課長 人数は41人です。
- 篠原委員 41人ですか。わかりました。それなら2台で運行するべきだと思います。なぜこんなことを言うのかといいますと、できるだけ経費を削減したいという思いもありましたので、登校時には2つのルートに分かれて、下校時は同じルートをたどっていますよね。緑色の便は瀬越の公民館で終わって、赤色の吉崎御坊まで行く便は、またそこを伝えていくことになっていますよね。そうなってくると2台帰る便がいるのかと疑問になったわけです。ガソリンのこともありますし、運転手さんのこともありますし、どういご契約をなさるのかわかりませんが、そういうこともありますので。全部で41名ですから、3便は主にプラスの子ども達が対象だと思うんですけど、もしバスにゆとりがあるならば1号車だけでも、帰りはルートが一緒ですから可能なんじゃないかなと思った次第であります。それからもうひとつは吉崎御坊ということは浜坂の子ども達を対象にしてここまで来てもらうということですね。浜坂から歩いてきてもらって吉崎御坊の駐車場で待ってもらうということになるわけですね。
- 山本課長 はい。
- 篠原委員 わかりました。一応そのことが気になったわけで、もしそのことが効率的にあるいは経費的にも安くあげられれば一番いいのではないかなと思った次第であります。
- 山本課長 今篠原委員さんが言われた通りでして、1台の運行でまかなえる可能性が十分にあると思います。下校時なんですけれども、考えられますのは錦城小学校の中に学童保育がありますし、あとプラスバンドに入る子が多ければ乗車の人数がばらけるということがあります。そのあたり現時点ではどういった状況になるかはわからないところがありますので、一応最大で乗ることになった場合は2台以上の運行になりますし、以外にばらけて1台で乗れる状態になった際にはまた学校の方とも相談して1台に集約する、そういったことも運行する中であるかもしれません。
- 篠原委員 2台運行する場合はプラスとか学童の子ども達を対象にしたという意味でとらえればいいわけですね。
- 山本課長 そうです。
- 篠原委員 場所に応じて特に利用が少なかったら1号車だけでも可能だと、将来的にはそういうこともあり得るということよろしいですか。
- 山本課長 このあいだ保護者の方に説明した中では、低学年の子どもには、バスが2台あり

ますから、違うバスに乗り込む心配があるということがありました。日ごとに1台の運行であったり2台の運行であったりするとやはり小さい学年の子ども達は混乱するということがありますので、そのあたりのことも踏まえながら効率的かつ子ども達が戸惑わないようなことを見極めていく必要があるのかなと思っています。

○山下教育長 他、ございませんか。

○佐野委員 はい。定期じゃないですけど、そういう証明みたいなものを発行されるんですか。

○山本課長 はい。特に定期券とかそういったものは今のところ予定はしていないんですけど、話として出たのは、運転手さんが子どもの名前とか顔をはっきり覚えられるように何らかの目印があった方がいいのかなという意見もありました。そのあたりも実際にやってみる中で考えていく必要があると思います。ちなみに運賃はかかりません。無料での乗車です。

○篠原委員 例えばバスならバスみたいなものを発行して、赤なら赤のバスで、緑なら緑のバスと明確にすれば子ども達もこっちなんだと。あるいはバスの表示も赤とか、緑とかを書いておけば間違いなく乗ってくれるのかなと思いますけど。運転手さんも誰かわからないというのは不安なものがありますし、不特定多数の児童が乗る可能性も十二分にあるわけです。ですからある程度のことまではしてあげないと、いきなり運転手さんに任せるのは酷かなと思いますので。

○山下教育長 下校時は今の段階では人数はわからないかもしれませんが、登校時の1号車、2号車の人数はわかりますか。

○山本課長 人数はすぐにわかりますので調べます。

○篠原委員 これはスクールバスという名目で運行していくことになると思うんですけど、前に緑丘小校区の町民の皆さんから、要するに住民の皆さんもそのバスに乗って利用できるような要望があったとお聞きしているんですが、そういうことでこのバスを住民の方が利用することは可能なのか、あるいは今のところ考えていないのかお聞かせください。

○山本課長 はい。結論を申し上げますと、一般住民の方の乗車は今のところ考えておりません。その理由としまして、路線バスの乗車を減らす原因になったりとか、あと瀬越と上木は路線バスがないですけど、乗合タクシーが使えますから、そちらの利用が減る原因になったりとか、そういった懸念がありますので、一般住民の利用は今のところ想定しておりません。

○篠原委員 わかりました。

○山下教育長 他、ございませんか。

○疎委員 はい。定期とか何か印をつけることはとてもいいことだと思うんですけど、小学校1年生くらいだと朝の持ち物を忘れて気持ちが焦ったりするといけないので、何かいい方法を考えていただきたいなと思います。

○篠原委員 よくランドセルなんかにぶら下げておくんですよ。いつもそうやって定期を見せたりするので、それはたぶんいろんなところで工夫をしています。金沢市内でもよく通学生がバスを利用しているのがありますし、現状でも確か錦城中学校のバスを利用している子もいますから、たぶん大丈夫だと思います。

○山下教育長 今の点また工夫をできたらお願いします。

○山下委員 お願いします。現状で山中小学校のスクールバスに対して、そういった定期とかの発行はしているんですか。

○山本課長　私の記憶では定期券というものは渡していないと思います。ただ学校の玄関のところに今日のマイクロバスの乗車予定の子どもの名前をマグネットシールで貼ってある、そういったボードがあったように思います。それを子ども達が理解したかたちでやっているのかなと。山中小も東谷のコースと2台ありますので、かたちとしては緑丘小学校も似たかたちになってくるかと思えます。

○山下委員　山中小の現状を参考にされたり、山中の対応で不具合があればそれを改善するような方向であればなおいいかなと思います。

○山下教育長　他、ございませんか。今いただいたご意見を参考にしながら、子ども達が迷うことがないように乗車できる方法等を考えていきたいと思えます。それでは次、加賀温泉郷マラソン2019の申込状況について奥村室長お願いいたします。

- 加賀温泉郷マラソン2019の申込状況について
奥村室長　資料に基づき説明

○山下教育長　加賀温泉郷マラソン2019の昨日現在の申し込みを報告していただきました。これについて何かご意見、ご質問ございませんか。ございませんか。できたら過去の6,076人を超えて6,500人近くいかないかなということをおもっております。

それではその他のその他ということで事務局何かありますか。

○山本課長　先ほどのスクールバスの関係で、登校のときの乗車人数ですけれども、1号車が24人、2号車が16人、計40人です。先ほど41人と申し上げましたけれども、浜坂の子どもがひとり減ったということで計40人であります。あと予算的には来年度の当初予算で計上いたしますけれども、まだ予算編成途上でありますので、予算的な内容についても100パーセント確定までにはまだいたっていないと申し添えておきたいと思えます。

○山下教育長　では、その他のその他で次回の教育委員会定例会の日程について山本課長お願いいたします。

- 次回教育委員会定例会日程について
山本課長　説明

○山下教育長　それでは2月27日水曜日13時半ということで予定に入れておいてください。他に何かございますか。よろしいですか。

それでは以上で第1回教育委員会定例会を閉会いたします。ご苦労様でした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。